

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

1. 2022年度 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は居宅系事業の稼働率の上昇、入所事業の稼働維持により増加となった。
 - 報酬改定による単価アップ
 - 加算算定による増収
 - どの拠点においてもコロナ特例による補助金と物価高騰に係る補助金あり
 - 稼働率
 - 入所系サービスは、ウイルスを除き減収。通所系サービスは増収。
 - 人員配置の適正化、業務の効率化の実施にむけ分析を進めた。
- サービスの質
 - 利用者最優先で、個々の技術面のみならずチームとして高品質な介護サービスの提供体制の推進
 - 感染症対策を行った上、QOLとADLの維持向上を目的とした余暇活動の企画、実施
- 人材の確保、育成
 - 外国人介護人材の定着。特定技能にて在留中の介護職員の就業継続支援を行った。
 - 未経験職員の入職受け入れ
 - 介護職員のアセッサー講習受講
 - ユニットリーダー研修受講
 - 職場環境の見直し、有休消化、時間外労働削減へ取り組み、職員のモチベーションの維持とストレスケアにむけ、話し合う
 - 人員配置が適正であるかの見直しの実施、適正配置への計画作成
 - 研修の実施。座学だけでなく実地研修の積極的实施
 - キャリアパス制度の整備など人事管理、制度の適正化
- 法人、グループ内の連携
 - 相互に連携、協力体制をもち、ノウハウなどの利点を最大限に生かす。
 - 勉強会、技術交流や情報共有の実施
- 地域貢献活動

- 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、地域の移動販売店などを招く。
- 地域の理美容室の方との交流。
- 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続の為、各事業所会議等への参加を継続した。
- 新規事業、改修工事
 - 特記無し。
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 標準予防策、環境整備など感染対策、職員への注意喚起の徹底
- 新型コロナウイルス感染症に関する補助金
 - コロナ母性健康管理措置助成金
 - コロナ小学校休業両立支援補助金
 - コロナ感染者介護従事者危険宿泊手当
 - 自宅療養者等補助金
 - サービス提供体制確保事業補助金
 - 事業継続支援事業補助金
- 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
 - 物価高騰緊急対策支援金
 - 物価高騰にかかる特別給付金
 - 高齢者施設原油価格物価高騰対策支援金

2. 運営状況(稼働率、利用者数)

※()の数値は対前年度の増減

高齢者事業

- 特養(稼働率)

事業所名	2021年度	2022年度
特養かおりの丘(入所)【60名】 (ショート)【10名】	104.0% 66.8%	98.2%(▲5.8%) 59.0%(▲7.8%)
ヴィラー宮(入所) 【20名】	98.6%	91.6%(▲7.0%)
ヴィラ泉 (入所)【110名】 (ショート)【10名】	98.3% 89.2%	95.6%(▲2.7%) 119.7%(+30.5%)
ケアホーム花畑(ユニット型入所)【72名】 (ユニット型ショート)【12名】 (従来型) 【36名】	97.4% 63.0% 99.5%	94.3%(▲3.1%) 78.6%(+15.6%) 86.4%(▲13.1%)

- 通所介護(稼働率)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘デイサービスセンター【35名】	77.4%	79.3%(+1.9%)
平成デイサービスセンター泉【20名】	59.2%	76.4%(+17.2%)

- 訪問看護(延べ人数)

事業所名	2021年度	2022年度
訪問ステーションてととと洲本	10,098名	11,379名(+1,281名)

- 訪問介護(延べ人数)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘ホームヘルプサービス	6,041名	5,852名(▲189名)

- 居宅介護支援(ケアプラン数)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘居宅介護支援事業所	387件	660件(+273件)

障がい者事業

- 居宅介護・重度訪問介護(延べ人数)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘ホームヘルプサービス	1,165名	1,564名(+399名)

- 移動支援(延べ人数)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘ホームヘルプサービス	52名	298名(+246名)

その他事業

- 在宅介護支援センター(延べ人数)

事業所名	2021年度	2022年度
かおりの丘在宅介護支援センター (訪問)	459件	325件(▲134件)
(電話相談)	179件	224件(+45件)
(関係者会議)	105件	117件(+12件)

2023年 6月 6日

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

- かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】
- かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】
- かおりの丘ホームヘルプサービス
(訪問介護(予防含む)、障害福祉サービス:居宅介護)

その他事業

- かおりの丘居宅介護支援事業所
 - かおりの丘在宅介護支援センター
-

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 排せつ支援加算(Ⅰ)、科学的介護推進体制加算(Ⅱ)、安全対策体制加算、栄養マネジメント強化加算の算定継続。
 - 令和4年4月よりADL維持等加算、令和4年10月よりベースアップ等支援加算の算定により単価はアップした。
 - 感染症発生による入院者の増加や短期の受け入れが困難となり、また待機者減少による早期の案内が出来ず、全体の収益は減少となった。
 - 稼働率
 - 利用者様の健康管理に努め、安定した入所状況継続の取り組みを行った。
 - 積極的に事業所の訪問、毎月の広報誌作成による広報活動を継続し、申込者、新規利用者様の獲得に努めた。
 - 収支改善
 - 広報活動や事業所訪問を継続し、新規利用者様の獲得に繋がった。
 - サービスの質
 - コロナ禍で外出や地域交流、ボランティア等の受け入れが難しい中、定期的に行事を企画し、日々のレクリエーションも少人数でも楽しめるように考え、取り組み、利用者様へのサービスの維持に努めた。
 - より良いサービスに繋げるため、多職種との連携を密に行った。
 - オンライン面会や、感染状況に応じ、感染対策を実施した中での対面面会を行い、家族様と過ごす時間を確保した。
 - 人材の確保、育成
 - 外国人介護人材の定着。継続して就労出来るよう支援した。
 - 職場環境の見直し、有休消化、時間外労働削減へ取り組み、職員のモチベーションの維持とストレスケアに向け話す機会を設けた。
 - 介護福祉士合格者あり。より充実した介助、支援体制の整備を進めた。

- 研修の実施
 - AED訓練や、垂直避難訓練、座学だけでなく実地訓練も積極的に行った。
- 地域貢献活動
 - 新型コロナウイルスの状況をみながら地域応援の広報誌への参加。
 - 感染状況を見ながら、地域の理美容室の方に来ていただき散髪をして頂いた。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続するため、各事業所会議等への参加を継続した。
- 主な指標

- 入所

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	104.0%	98.2%(▲5.8%)
平均要介護度	3.9	4.0(+0.1)
単価(人・日)	11,359円	11,436円(+77円)

- ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	66.8%	59.0%(▲7.8%)
平均要介護度	3.2	3.0(▲0.2)
単価(人・日)	11,168円	10,996円(▲172円)

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 新規利用者の獲得など前年度の比較で増収となった。
 - 現在算定中の加算を継続し、収益維持に努めた。
 - 稼働率
 - 前年度との比較で稼働率は1.9%上昇した。
 - 積極的な事業所訪問を実施し、新規利用者の獲得に努めた。
 - 収支改善

- 広報活動を行い、新規利用者の獲得に続けることができた。
- サービスの質
 - やりたいことができるデイを目指し、職員全体で取り組むことができた。
 - 利用者の状態や家族の希望に合わせた、短時間デイの利用やサービス提供を行った。
 - 利用者の状況などが変化した場合は事業所との積極的な連携を行った。
- 人材の確保、育成
 - 産休職員への配慮等、人材が確保できる環境に努めた。
 - コロナウイルス感染症対策を踏まえた上で職種、経験や個人の特性に即した研修の実施。
- 地域貢献活動
 - 通所介護事業所連絡会への参加。
 - 地域イベントに参加し、作品展示を実施。
- 改修工事
 - なし

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	77.4%	79.3%(+1.9%)
平均要介護度	2.2	2.4(+0.2)
単価(人・日)	8,964円	9,128円(+164円)

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護(予防含む)、障害福祉サービス:居宅介護)

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 地域広報活動で、障害分野や新規利用者様獲得に繋がった。延べ人数の増加、増収となっている。
 - 介護保険サービスについては、特定事業所加算Ⅰに変更になったため単価はアップ。
 - 稼働率
 - 訪問介護員1人一日5件の目標は達成率92%
 - 収支改善

- 訪問スケジュールを見直し、空き時間を埋めることに努めた。
- 障害福祉分野の利用者の受け入れを積極的に行った。
- サービスの質
 - より良いサービスにつなげる為、職員間での情報の共有を密にした。
 - 関連機関との連携を大切に行った。
- 人材の確保、育成
 - 退職者の再入職・現場復帰等マンパワーの確保に努めた。
 - コロナウイルス感染症対策を踏まえた上で職種、経験や個人の特性に即した研修の実施。
- 地域貢献活動
 - 淡路市訪問介護事業所連絡会、淡路障害者自立支援協議会への参加と連絡会主催の研修会に参加。
- 改修工事
 - なし

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

○ 訪問介護(予防含む)

介護・予防	2021年度	2022年度
延べ人数	6,041名	5,852名(▲189名)
単価(人・日)	3,621円	3,879円(+258円)

○ 障害福祉サービス:居宅介護

障害	2021年度	2022年度
延べ人数	1,165名	1,564名(+399名)
単価(人・日)	3,462円	3,528円(+66円)

○ 障害福祉サービス:移動支援

障害	2021年度	2022年度
延べ人数	52名	298名(+246名)
単価(人・日)	2,300円	2,300円(±0円)

その他事業

かおりの丘居宅介護支援事業所

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 給付管理数増加により増収となった。
 - サービスの質
 - 主任介護支援専門員 1名(管理者兼務)
介護支援専門員 1名(在宅介護支援センター兼務)
計2名で運営。
担当利用者様の情報共有と連携を意識して、担当ケアマネ不在時にでも対応が可能な体制づくりを実施
 - 各関係機関と創発的ネットワークを形成するために、関係者会議等へ積極的に参加。(包括と市内事業所連絡会が主催する会議等)
 - 人材育成・確保
主任介護支援専門員の元、制度や新たな社会資源や地域活動等を情報を集め利用者様により良いサービスおよび活動を提供することに努めた。
 - 地域貢献活動
 - 在宅介護支援センター機関の役割を生かした居宅介護の説明会を地域で開催
 - 各地区での研修会講師(認知症サポーター養成講座等):2件
在宅介護支援センターと居宅介護支援事業所の両方の立場で参加
- 主な指標 ※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
介護給付管理件数	315件	565名(+250件)
予防委託件数	72件	95件(+23件)
認定調査件数	16件	23件(+7件)

かおりの丘在宅介護支援センター

- 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 関係者会議の自粛。コロナ感染症予防において、訪問活動の再開や活動が流動的に変化するのは変わらず。特に訪問活動等に影響。併設の特養でコロナ感染症の流行なども活動に影響。また居宅介護支援の業務を兼務することになったことも減収につながった。
- サービスの質
 - コロナ禍でもできる、コロナ禍だからこそできる活動を計画し、地域での活動に参加。
 - 主にオンライン(簡単なスマホ教室等)を説明。認知症サポーター養成講座を小学校や高校、一般企業にも講義。
 - 各居宅介護支援事業所、行政関係者や、地域の役職(民生委員等)とのつながりをサポートする係として活動。
- 地域貢献活動
 - 各地区での研修会講師(認知症サポーター養成講座等):5件

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

相談内訳	2021年度	2022年度
訪問相談件数	459件	325件(▲134件)
電話相談件数	179件	224件(+45件)
関係者会議件数	105件	117件(+12件)

2023年 6月 6日

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 排せつ支援加算(Ⅰ)、科学的介護推進体制加算(Ⅱ)、安全対策体制加算、栄養マネジメント強化加算、日常生活継続支援加算(Ⅱ)の算定継続。
 - 日頃から各事業所との連絡・調整を行い、入院等により空床ができた際には待機者が早期に入所できるよう努めたものの、入院者の増加や待機者の減少により減収となった。
 - 稼働率
 - 利用者様の健康管理に努め、安定した入所状況の継続ができるよう取り組んだ。
 - 定期的なHPの更新や広報誌の作成による広報活動を継続し、申込者の確保に努めた。
 - 収支改善
 - 人員配置の適正化を進めた。
 - 業務改善に取り組み、効率化の実施を進めた。
 - サービスの質
 - 季節ごとの行事や誕生日会、日頃のレクリエーション活動や体操を実施して、楽しみを持って生活して頂ける様に努めた。
 - 感染状況に応じて、オンライン面会や感染対策を行った中での直接面会を行い、家族様と過ごす時間を確保してきた。
 - 毎月一回、介護職員によるケア会議を実施して介護方法の検討・見直しを持つ機会を作り、サービスの質の向上に努めた。
 - 人材の確保、育成
 - 各委員会会議や勉強会を実施して、他職種との話し合いや知識を深めていく機会を設けた。
 - 様々な時間帯のパート契約を行い、必要な時間帯での人材を確保した。
 - 介護キャリア段位制度(アセッサー)取得の取り組みを行った。
 - 地域貢献活動
 - 昨年同様に新型コロナウイルスの流行状況を踏まえながら、状況に合わせて書面開催や施設にて運営推進会議を行った。
 - 感染状況を見ながら、地域の理美容室の方に来てもらい散髪して頂いた。

- 主な指標

- 入所(ショート含む)

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	98.6%	91.6%(▲7.0%)
平均要介護度	3.5	2.9(▲0.6)
単価(人・日)	13,379円	12,965円(▲414円)

2023年 6月 6日

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は前年度より減少した。
 - ベースアップ等支援加算が通年で算定したことにより単価が増加した。
 - 稼働率
 - 何度かのクラスターに対応しながらであったが、入所・短期のあわせた稼働率はほぼ昨年度と同じだった。
 - 収支改善
 - 空床を作らないようにショートの稼働と特養の空床利用を積極的に活用することし、現場の理解を求めたうえで、相談員・ケアマネジャー間の連携、相談を密に行った。
 - サービスの質
 - 新型コロナウイルス対策を行いながら、施設内での行事を積極的に開催した。
 - 面会制限がある為、面会時には家族様との記念撮影を行い、写真を家族様と利用者様に渡し喜ばれた。
 - 人材の確保、育成
 - 未経験者の採用を積極的に行い、介護職員の人員安定化をはかった。
 - 各部署に役職を置くことにより、指示系統を明確にした。
 - 地域貢献活動
 - 地域包括事業で毎週ヴィラ泉の駐車場を青空スーパー(ローソン、障害者施設のパン販売)を実施した。
- 主な指標

- 入所

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	98.3%	95.6%(▲2.7%)
平均要介護度	3.8	3.8(±0)
単価(人・日)	14,879円	14,931円(+52円)

- ショート

	2021年度	2022年度
--	--------	--------

稼働率	89.2%	119.7% (+30.5%)
平均要介護度	3.1	2.8 (▲0.3)
単価(人・日)	14,936円	14,896円 (▲40円)

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 8割には届いてないが、稼働率は大幅に上昇し、収入が増えた。
 - 個人単価はベースアップ等支援加算の通年算定により増加した。
 - 稼働率
 - 新型コロナウイルスの影響の中、稼働率は改善した。
 - 収支改善
 - 「歩いてお風呂に入れるデイサービス」を売りにご利用者を増やすことができた。
 - 利用者様の利用回数を増やして頂く為、イベントの充実を図った。
 - サービスの質
 - 個別リハビリ(歩行練習)を積極的に取り入れた。
 - 食に関するイベントを多く取り入れた。
 - 利用者同士のコミュニティ作りを大切にした。
 - 利用中の様子を動画や写真で家族様に発信することで、より安心して利用していただくことができた。
 - 人材の確保、育成
 - 常勤介護職員を増員し、安定したサービスを提供出来る様にした。

- 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	59.2%	76.4% (+17.2%)
平均要介護度	1.8	1.8 (±0)
単価(人・日)	9,602円	10,203円 (+601円)

2023年 6月 6日

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 新型コロナウイルスの入院等の影響が大きく前年度比より減収となった。
 - 長期入所は日常生活継続支援加算がサービス提供体制加算Ⅰに変更となったこと、短期入所は利用者の平均要介護度の低下により単価減となる。
 - ベースアップ支援加算の加算算定
 - コロナ特例による補助金あり
 - 稼働率
 - 医療行為及び認知症が高度な方を受け入れる事により他の施設との差別化を図ることをおこなった。コロナ禍において後半は入院が増え稼働率、収益に影響がでた。
 - 区内の新規特養増設に伴いユニット申し込み者の分散化等の影響により申込者減少の影響があった
 - ショートステイに関しては、ユニット本入居の空床を緊急ショートや医療依存度の高い利用者様の受け入れを積極的に行いショートの稼働率は前年度より15.6%増加となった
 - サービスの質
 - ご家族の要望に応じ協力病院と連携し健康診断の実施をおこなうことで利用者様とご家族の負担が軽減された。
 - 利用者様の個別性を重視し可能な要望には対応する。
 - 24時間看護師を配置することで疾患の早期発見と早期治療に繋げることが出来た。
 - 毎月ご家族様へ利用者様の状況と写真を送り施設での生活を報告し安心感を得る。
 - 人材の確保、育成
 - 介護職員の意識向上を目指し係長職・主任職を命じ、役職者としての役割を意識し人材定着と介護技術の標準化を目指す。
 - ユニットリーダー研修・痰吸引研修・アセッサー研修・リスクマネジメント研修・特定看護師研修への参加

- 地域貢献活動

- コロナ禍のなか積極的な活動は控え、施設が避難所として有効利用できるよう備品のチェックと整理を行った。

- その他

- コロナ感染症予防を遵守しながら毎月ユニット単位で年間行事計画をこなすことが出来た。

- 主な指標

- 入所

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	97.4%	94.3%(▲3.1%)
平均要介護度	3.8	3.8(±0)
単価(人・日)	15,310円	15,142円(▲168円)

- ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	63.0%	78.6%(+15.6%)
平均要介護度	3.8	3.4(▲0.4)
単価(人・日)	16,057円	16,024円(▲33円)

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 入居者の体調不良者が続出し回復までに時間が要したため稼働率、収益の低下を招いた
 - 日常生活継続支援加算の算定
 - ベースアップ支援加算の加算算定
 - コロナ特例による補助金あり

- 稼働率
 - 入居者の入院に伴う影響で稼働率が落ち込んだ
- 収支改善
 - 医療行為及び認知症が高度な方を受け入れた。
 - 新規入居者の自立度・介護度の確認を行い入所受入れを行った
 - 人員配置の適正化、業務の効率化の実施
- サービスの質
 - ご家族の要望に応じ協力病院と連携し健康診断の実施をおこなうことで利用者様とご家族の負担が軽減された。
 - 利用者様の個別性を重視し可能な要望には対応する。
 - 24時間看護師を配置することで疾患の早期発見と早期治療に繋げることが出来た。
 - 毎月ご家族様へ利用者様の状況と写真を送り施設での生活を報告し安心感を得る。
- 人材の確保・育成
 - 介護職員の意識向上を目指し係長職・主任職を命じ、役職者としての役割を意識し人材定着と介護技術の標準化を目指す。
 - ユニットリーダー研修・痰吸引研修・アセッサー研修・リスクマネジメント研修・特定看護師研修への参加
- 地域貢献活動
 - コロナ禍のなか積極的な活動は控え、施設が避難所として有効利用できるよう備品のチェックと整理を行った。
- その他
 - コロナ感染症予防を遵守しながら毎月ユニット単位で年間行事計画をこなすことが出来た。

● 主な指標(ショート含む)

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.5%	86.4%(▲13.1%)
平均要介護度	4.0	4.0(±0)
単価(人・日)	12,835円	13,062円(+227円)

2023年 6月 6日

2022年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてととと洲本(訪問看護)

高齢者事業

訪問ステーションてととと洲本(訪問看護)

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 人員体制は2022年は看護師3名、理学療法士3名でスタート。7月より理学療法士が1名入職し、7月以降は看護師3名、理学療法士4名で稼働。サービス提供の全体収益は前年度比108.1%と増収。(部署別内訳では看護師前年比95.6%、リハビリ前年比118.5%)
 - 売り上げ単価は前年比95.8%と減収。
 - 稼働率
 - 稼働の延べ人数は全体で前年度比112.2%。(内看護師対象は前年度比96.8%、リハビリ対象は前年度比118.7%)
 - 看護師の定期巡回・随時対応サービス連携対象の利用者は前年度月平均4.6人から月平均4.9人と前年比106.5%へ増加。
 - 収支改善
 - リハビリの訪問件数が前年比109%、内単価の高い医療保険対象は前年比120%と増加。訪問件数と単価の両面から収益増につなげることができた。
 - リハビリ一人当たり1日平均訪問件数は前年比98.2%(5.5件、管理者除く)と減少しているが、中途採用職員のサポートのため管理者訪問率を増やし全体の訪問件数増加につなげている。
 - 看護師の訪問件数が前年比96.8%、一人当たり1日平均訪問件数は前年比91.6%。要支援が前年比129%、要介護30分訪問が前年比108%と増加を認める。単価の高い1時間訪問は前年比42%、医療保険は約83%と全体件数と単価割合の向上には至らず。
 - 医療保険利用者は前年度比104.9%と増加を認める。
 - 定期巡回・随時対応サービス連携の利用者は前年比106.5%と増加による収益増を認める。
 - 3~4月、7~9月に利用者・職員のコロナ感染を認め、増収に対する影響を認める。
 - サービスの質
 - 感染予防対策について継続して取り組みを行い、ご家族様の理解・協力を得てサービス提供の継続できる環境づくりに努めた。
 - 予定外訪問の相談について積極的に対応し、新たな訪問サービスの必要性や

緊急時対応の環境整備の必要性などの提案を行い、利用者の安心につながる環境づくりをすすめるように事業所内での意識付けを行い実践の取り組みを行った。

- 要介護度の高い利用者、重度疾患、難病等利用者に対し褥瘡処置、人工呼吸器管理等の在宅で必要とされる看護提供を安全に実施できるように対応を行った。
- 利用者様や家族様、ケアマネジャー等から日常の困りごとや訪問者の対応で気になる点の有無について、定期的に聞き取りを行い早期に問題把握と課題解決できるように連絡連携体制の強化に努めた。
- 利用者様の状態の変化や家族様の希望に合わせたサービス提供ができるように看護師・リハビリの事業所内連携とともに、現地やWeb利用での他事業所多職種との連携を行った。
- 個人の知識、技術面の向上、接遇マナーについて定期的な確認・見直しにつなげるようにミニカンファレンス等を継続して実施した。
- 問題解決を図るための相談時間を作りだせるように効率的な訪問スケジュール作成について取り組みを継続した。

○ 人材の確保、育成

- 職種、経験や個人の特性に即した指導・教育となるような研修やケースカンファレンスを行い、業務の質を高めるよう取り組みを継続している。
- 看護師によるリハビリ的視点、リハビリ職による看護的視点を相互に増やし利用者のケア、サポートの幅を拡げサービスの質を上げるための相談を意識的に増やす環境づくりに努めた。実際にカンファレンスや同行訪問の機会を作る、現地からの画像を利用した相談等を増やす取り組みを実施。
- 自発的に業務の取り組みを進めることができる、自ら考え、最適解を導き出すための気づきや知識・判断基準を持てるように研修等取り組みを実施。
- 効率的な業務遂行を計画立てられるように、訪問スケジュールの検討や業務実績の見直し、フィードバックを実施。

○ 地域貢献活動

- 地域の自立支援会議や在宅療養支援計画策定会議(難病患者支援者検討会)、地域ケア会議(リハビリ専門部会)、圏域訪問看護ステーション協議会など、Web会議を中心として参加を継続し、各種の連携を図った。
- 2022年度も継続して定期巡回・随時対応サービス連携委託業務を実施。

○ 改修工事

- 実施無し

○ その他

- 兵庫県の事業制度の利用の継続(在宅人工呼吸器使用患者支援事業)
- 精神科訪問基本療養費の対象者の訪問を継続
- 地域の定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所と連携委託業務から、定期訪問や通常の介護保険訪問サービスへの移行ケースの増加。

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
延べ人数	10,098名	11,379名(+1,281名)
平均要介護度	1.9	1.9(±0)
単価(人・日)	4,216円	4,041円(▲175円)